

令和4年度福岡市埋蔵文化財センター考古学講座

# 海と山

# がおりなす歴史

第4回 11月19日(土)

奈良時代の海と山、  
マネジメントのはじまり

大野城心のふるさと館 赤司 善彦 氏

福岡市埋蔵文化財センター講座室  
13時30分〜15時00分 (13時00分受付・開場)  
※各回の定員、申込方法は、市政だよりと市ホームページでお知らせします。

- 感染症の拡大状況により、上記内容を変更する場合があります。
- ご来場の前に福岡市埋蔵文化財センターホームページをご確認ください。

埋蔵文化財センター  
ホームページ

「福岡市の文化財」  
Facebook

入場無料

主催 福岡市埋蔵文化財センター

〒812-0881 福岡市博多区井相田 2-1-94  
TEL: 092-571-2921 FAX: 092-571-2825  
電子メール: maibun-c.EPB@city.fukuoka.lg.jp

講座とリンクした企画展

令和4年5月17日～  
令和5年3月31日





## 『奈良時代の海と山、マネジメントのはじまり』

市民ミュージアム大野城心のふるさと館 赤司善彦

### マネジメントのはじまりとは

古墳時代と古代が折り重なる7世紀は、政治的には激動の時代であった。とりわけ東アジアでは隋・唐が韓半島の三国抗争に直接介入したことで半島情勢は流動化し、倭国もその渦中に投げ込まれた。660年の百済滅亡に始まる百済復興のための倭国の一連の派兵、そして663年の白村江での大敗、これを契機に日本列島で初めての中央主権国家が誕生しようとした。このとき国名を「日本」に改名し、領海・領土という国家意識が初めて芽生えた。国境が対馬と韓半島の間を意識され、海路の交通を規制する必要が生まれた。その関門が大宰府という官司である。来日する海外使節の応接などの外交機能だけでなく、平時から唐と新羅の侵攻に備えた防衛機能も担っていた。これらの機能を運営するために、国家による人的資源から食料資源・鉱物資源・森林資源までも管理されたのである。そして辺境の地である西海道には、平城京のミニ版というべき大宰府を設置し、ここで一元的に管理した。こうして地方豪族を掌握し、海も山も陸も大宰府によるマネジメントが始まったのである。

### 1 海と山の国日本 「諸国に令して、海人及び山守部を定む」(『日本書紀』)

日本列島は海に囲まれ、6852の島嶼で構成された島国で、国土の約75%は山岳地帯。山と島の国で、25%の平野(低地15%と台地10%)に人口の約8割が集中。海岸線は34000km(地球一周の85%)で複雑に入り組み、漁村や港町が数多く形成されてきた。古代には、国家によって漁撈活動に従事する海部や、山には山守部(山部)が設置された。

- ・『古事記』八百万神生み 国生みの後大地・家屋・風の神に次ぎ海の神水戸の神
- ・『日本書紀』 海を生みたまひ、次に川を生みたまひ、次に山を生みたまひ

□海人の系譜と海の神々 集団の氏神なので、各地の海人の系譜を知る

- ・安曇族 綿津見三神・・・海そのものが神
- ・住吉族 住吉三神・・・ワタツミと同時に生まれる 遣唐使船の守護神  
山麓・山中・山頂と同じように海も表面・底・中
- ・宗像族 宗像三女神

国史 玄海重視

□山守部 朝廷直轄の山林の管理や、山の幸(栗・山菜など)を貢納

□平安時代の百科事典『倭名類聚抄』記載(931~938)の行政区分と海神の神社

- ・ワタツミ神が最も多く20, 次いで宗像神14, 住吉神10
- ・玄界灘(筑前・壱岐・対馬)に海神が多い

□海幸彦と山幸彦の伝説 二人の兄弟神 釣り針から始まる兄弟げんか

- ・山の民が海神の力(安曇一族)で海の民を従える話か? それが天皇制の始まり
- ・山幸彦(彦火火出見尊)と豊玉姫命(豊玉彦命の娘)結婚 子 鵜鷺草不合尊  
鵜鷺草不合尊と玉依姫尊(豊玉姫命の妹)子 彦火火出見尊(神武天皇)

※豊玉彦命(海神)の子孫が阿曇氏 安曇

国	郡	郷	神社	国	郡	郷	神社
筑前	宗像	海部	宗像神社(大)▲	隠岐	知夫		海神社(小)●
	那珂	海部	住吉神社(大)■	丹波	城崎	城崎	海神社(大)●
	糟屋	阿曇	志加海神社(大)●	摂津	住吉	住道	住吉坐神社(大)■
	御笠	長岡	竈門神社(大)●		住吉		大海神社(大)●
肥前	松浦	値賀	田嶋坐神社(大)▲	山城	相楽	和伎坐天乃夫支売神社(大)▲	
壱岐	壱岐	鯨伏	住吉神社(大)■	大和	城上		宗像神社(大)▲
	石田		海神社(大)●		吉野		波宝神社■
対馬	上県		和多都美神社(大)●	紀伊	那賀		海神社(小)●
	上県	三根	和多都美御子神社(大)●		牟婁		海神社(小)●
	下県	難知	和多都美神社(大)●	近江	蒲生	大嶋	奥津嶋神社(大)▲
	下県	難知	住吉神社(大)■		浅井		塩津神社(小)■
	下県		和多都美神社(小)●	能登	鳳至	小屋	奥津比咩神社(小)▲
長門	豊浦		住吉坐荒御魂神社(大)■	伊賀	伊賀	猪田神社(小)■	
安芸	佐伯	海	伊都伎嶋神社(大)▲	尾張	中嶋	宗形神社(小)▲	
伊予	越智		姫坂神社(大)▲		山田		海神社(小)●
阿波	名方	土師	天石門別豊玉比売神社(小)●	武蔵	横見		横見神社(小)●
	名方	土師	和多都美豊玉比売神社(小)●	上総	埴生	埴石	玉前神社(大)●
備前	赤坂	周通	宗形神社(小)▲	下野	寒川	池邊	胸形神社(小)▲
	津高	津高	宗形神社(小)▲	信濃	安曇	八原	穂高神社(大)●
播磨	明石	神戸	海神社(大)●		埴科	英多	玉依比売神社(小)●
	賀茂		住吉神社(小)■	陸奥	磐城		住吉神社(小)■
伯耆	会見	阿曇	胸形神社(大)▲		安積		隠津嶋神社(小)▲

※この表は代表的な3つの海神を主祭神に祀っている、延喜式記載の神社名一覧です。  
 そのため 現在の神社名とは必ずしも一致しません。(選定は西暦880年前後)  
 (●ワタツミ神 ▲宗像神 ■住吉神。また(大)は明神大社、(小)は小社。)

## 2 大宰府の成立 西海道(古代九州)の海の幸、山の幸を独占管理

大宰府とは、古代に天中央だけでなく地方の土地も人民も統治する律令体制のしくみが整った時代に、西海道の諸国を統括しつつ日本の東アジア外交と国防の最前線を担った地方最大の役所と定義することができる。大宰府の財政基盤は西海道諸国から徴収した租税(稲)であるが、さらに調(特産物)として綿(現在の絹)や海産物を集め、一部は独自に調達した。大宰府機構の一つ主厨司には津厨や厨戸の海部集落が設置され、鴻臚館に提供する飲食等大宰府の台所を担っていた。また、大宰府が調達する各種の須恵器類も付近で大規模に操業し、さまざまな資源が大宰府に独占されていた。

・九州へ打ち込んだクサビ 筑紫君磐井の乱以後ヤマト王権による九州支配の強化、屯倉・那津官家設置。7世紀初頭に筑紫大宰文献に登場 8世紀には大宰府成立

・大宰府の機能 内政・外交・軍事

### ●大宰府の機構と海の幸

運営費 税を西海道諸国から集める

・官人組織 定員50人 帥1大弐1小弐2・・・陰陽師1医師2主厨1・・・史生20

大宰府政庁周辺官衙の諸司・諸所、学校院等に勤務

・主厨司 蕃客饗応、朝廷貢進、大宰府官人の交替料及び会食や常食

食品の調達、調理、加工、保存する役割

・どのように調達したか？

西海道諸国からの税物 海産物・河産物・油・獣肉・米・雑穀・その他

・生鮮食料品の調達は？

主厨司が調達 長官一膳部（食膳）、厨造一厨戸（採取・加工）

・大宰府の厨戸（くりやべ） 396 烟（『延喜式』）

海部・海人集団 筑前 宗像（海部）、糟屋（厨戸・阿曇・志珂）、那珂（海部）  
怡土（海部）、筑後 生葉、肥前 松浦（值嘉） 50 戸×8=400 戸

・厨戸郷はなぜ糟屋郡に置かれたのか

内膳司 長官 高橋氏と安曇氏（『職員令』）

・津厨 「鴻臚館と津厨は別の場所で大宰府から遠い」（『三代実録』869 年）

・海幸 海産物、贄 →筑前の海浜部 海部郷の成立 大宰府の厨戸（くりやべ）

□海の中道遺跡 志賀島「かはらけ塚とて土器をうみたる所あり」『筑前国統風土記』

・調査 1979 年～81 年国営公園 福岡市と九州大学、1990 年朝日新聞社

・遺構 竪穴住居・掘立柱建物・製塩作業所・貝塚と炉跡セット

・遺物 漁撈用具・製塩土器・石鍋・須恵器・土師器・緑釉陶器・輸入陶磁器・石製  
帯飾り・銅銭など

・成果 古代の製塩活動（藻塩焼き）、多彩な漁労活動と調理（ウロコ）

奢侈品（中国陶磁・金属製品）公的遺物（皇朝十二銭・唐銭）

津厨もしくは厨戸の中心的遺跡

（参考 板楠和子氏の研究「主厨司考」『大宰府論叢』1984）

・藻塩焼きに挑戦

・海から山へ 宝満山で製塩土器・塩壺出土 遣唐使航海の無事を祈る祭祀

●大宰府と山幸 山は狩猟・採集のみならず、鉱物資源・森林資源

□牛頸窯跡群窯業生産 山の樹木を燃料に使い尽くす（もののけ姫の世界）

・大野城市の南部一帯を中心に春日市・太宰府市を含む 5 km 四方の範囲

・登り窯（あな窯）総数 600 基近い 6 世紀中頃～9 世紀中頃 九州最大の窯跡群

・ハセムシ窯跡出土刻書須恵器 筑前国手東里に住む大神君ら 3 人が調（税の一種）  
として大甕を和銅六年（713）に納めるという意味 調の品物の実物資料

・大神氏との関係 大神神社 酒の神様

### 3 古代の海禁政策 大宰府の外交 国境管理基地 二つの客館

奈良時代には唐・新羅・渤海の三国と国交を開き、使節交流を行ったが、なるべく対外的な交渉は制限管理しようとした。その姿は江戸時代に中国とオランダの窓口となった長崎奉行と出島での管理とよく似ている。博多湾に筑紫館・鴻臚館を設置して港に来港する海外使節の入国管理と接待を行った。

□筑紫館（688 年）・鴻臚館 国境管理と接待 港防備

・1987 年以来調査継続 I～V 期（7 世紀後半～11 世紀前半）に変遷

・北館と南館、I 期宿泊施設は北館、饗宴は南館、II 期南館も宿泊施設、饗宴は大宰府客館か、III 期石垣埋める IV 期以降は建物遺構消失している。

・トイレ遺構の検出、「城」銘墨書土器と石垣（武装する鴻臚館）

・建物は時代の対外外交の在り方で変化する

□大宰府客館と条坊制

・都市大宰府が形成され、中央の朱雀大路沿いにも来日使節を応接する客館を設置

#### 4 古代山城の時代 防人制と軍団制

7世紀の倭国にとって最大のでき事は、唐によって滅ぼされた百済を再興するために、数万の大軍を援軍として渡海させたが、663年の白村江で大敗したことである。敗戦後は防人を島や玄海灘に配置し、水城や大野城・基肄城などの古代山城を造営した。各国に駐屯地を設けて徴兵による軍団を組織した。奈良時代の終わり頃に廃止されたが、西海道では引き続き維持された。大野城・基肄城も時代と共に役割が変化していった。

- ・二日市低地帯に拠点形成 軍事都市としての大宰府成立

□水城と大野城・基肄城

- ・奈良時代以降は倉庫群を膨大な数造営 稲穀にしてから収納 1棟 3000 穀収納

□四王寺山での新羅調伏の祈祷

#### 5 海と山を結ぶ 山陸海を大宰府と結ぶ官道

奈良時代には、都と地方を結ぶ幹線道路や地方と地方を結ぶ道路網が完成し、都からの伝令や、都への報告がいち早く届けられた。西海道の官道は大宰府を起点に四方へと官道が延びるのが特徴である。また鴻臚館と大宰府を結び使節が通る道も整備された。

- ・西海道駅路 直進性重視（最短距離）
- ・他地域は都を起点に伸びるが、西海道は大宰府が起点

□水城西門ルートと東門ルート 国際道路と税運搬道

- ・西門ルート 鴻臚館から大宰府まで

- ・警固断層と平行して敷設 断層崖の丘陵先端部が直線的に連なる 左横ずれ断層

□道路遺構 春日公園 大野城市池田遺跡 盛土、谷川遺跡 側溝2本 道幅9m

- ・福岡市野間B遺跡 大溝二条、切り通しの範囲に側溝確認

関連遺跡 大橋E遺跡、三宅A遺跡、中村遺跡、井尻B遺跡、中村遺跡

官道復元 直線的に西門から鴻臚館へ伸びる。鴻臚館東門が終点

福岡城～大橋・井尻まで通称県道5号線沿い、

- ・官道沿いに寺院跡 井尻廃寺、三宅廃寺、水城の南には杉塚廃寺、塔原廃寺

石瀬駅家 三宅付近 中村遺跡

(参考 吉留秀敏「鴻臚館から大宰府への道」史跡研究ふくおか 2009)

#### 6 大宰府から都を結ぶ海路

平安時代には、港湾整備も進み瀬戸内海から淀川を通り海路で直接都に物資を届けるようになった。陸路だけでなく海や河川の水上交通も国家による統制がなされた。こうして必要な物資を近隣だけでなく、遠方からも調達するようになった。

□堤ヶ浦窯跡 「警固」銘瓦生産

□相島海底遺跡

- ・海底に「警固」銘瓦が多数分布
- ・平安京 瓦 平安京への陸と海の道

(参考 新宮町教育委員会『相島海底遺跡』2020)

#### マネジメントの終わり

国家統制による陸や海、山の資源確保も平安時代になると各地域で足並みがそろわなくなり、さまざまな勢力の台頭で国家による一元的なマネジメントに無理が出始めた。